

はばたき

神戸の動物園グラフ

K O B E
O J I Z O O

APRIL 2004 No.54
神戸市立王子動物園 第54号



はじめに

動物園の近況

神戸市立王子動物園園長 大久保 建雄

前号以降の半年、様々な出来事がありました。中でも私達にとって大きな関心事は「ゴリラの導入」とインドゾウ「ズゼ出産への期待」であります。ゴリラは香川県高松市の「栗林公園動物園」の閉園に伴い、栗林公園動物園の要請により当園が引き取り飼育することとなり、去る1月21日に移動を完了しました。年間を通し最も寒い時期、しかも雌雄2頭同時の輸送であり、輸送に伴うリスクを考え暖かい4月頃と思っておりましたが、先方様の都合でやむなく1月実施となりました。この様に不安要因を抱えながらの輸送が無事終了したのは、底冷えのなか再三にわたり高松に行き、周到な準備を惜みなく頑張ってくれた職員の努力のお陰と感謝しています。2頭のゴリラが新しい環境に馴れ、健やかにして入園者に親しまれることを願い、更に将来「種の保全」計画に寄与出来る事を願っています。

さて今一つの関心事「ズゼの出産」であります。前回は死産という極めて残念な結果を見ており、全ての職員が「今回は是非」との熱い思いを強く抱いています。この思いを反映させ出産とその後の哺育の安全性を高めるべく、寢室の拡張と母子用サブパドックの設置等飼育環境の改善を図り、一方獣医師や飼育担当職員は出産に向け様々な場合に対応できる態勢の準備に努めています。ズゼの妊娠は昨年初めに報道されており、大きく膨らんだ腹部や乳房等外見からも容易に妊娠がうかがえる今、入園者から多くの声援を頂き期待の大きさを感じています。予定の臨月を迎え不安と期待が交錯する複雑な気持ちで、その瞬間を今かいまかと待ち望んでいます。本誌出版の頃には「子ゾウ日記」でお知らせ出来ることを念願し、皆様方に引き続きご支援ご指導をお願いして巻頭言と致します。

平成16年2月

目次 CONTENTS

表紙	フラミンゴ
p1	はじめに「動物園の近況」
p2~3	トピックス・イベント
p4~9	動物たちへのエンリッチメント ①「動物のあそび」～ストレスの緩和～ ②インコ編 ③ゾウ編 ④オオカミ編 ⑤カピバラ編 ⑥サイ編
p10~12	動物ハプニング特集 好プレー?珍プレー?特集 第1弾 ①カバ「ナミコ」の巻 ②インドゾウ「マック」の巻
p13	こども動物相談から ZOOっとタイムズ NO.20
p14~15	動物図鑑シリーズ NO.5「コアラ」 NO.6「フラミンゴ」
p16	動物の話題 ベビー誕生・ニューフェース・別れ
p17~18	第36回「 ^{さる} 申年賀状版画コンクール」から
p19~20	世界のいろいろなサル
p21~22	賛助広告
裏表紙	フラミンゴ<母親とヒナ> 編集後記

トピックス・イベント

動物園夜間探検隊

(11月15日・16日)

37組128人の親子が参加。懐中電灯の明かりをたよりに普段は見られない夜の動物たちの様子を観察しました。



トラ保護キャンペーン

(11月16日)

10月2日から11月30日の期間開催された特別展「がんばれ！ワイルドタイガース」に関連し、野生トラの保護キャンペーンを実施しました。

トラ保護ネットワーク代表戸田耿介氏のお話や当園職員による紙芝居など、278名の方に楽しみながら学んでいただきました。



動物音楽会

(11月23日)

昨年に続き地元の神戸市立葺合高校吹奏楽部による演奏会を開きました。指揮者体験コーナーや動物着ぐるみたちのダンスに282名の観客から大きな拍手が寄せられました。



インドゾウ「ズゼ」をはかる集い

(12月7日)

今回の「ズゼ」はお腹に赤ちゃんがいたので、昨年より315kg重い3952kgでした。



トピックス・イベント

干支の引継ぎ式「ヒツジからサルへ」 (12月21日)

すべての生き物にとって、平成16年が良い年になるようお願いを含め、引継ぎ書によりヒツジからサルにバトンタッチされました。



動物園クリスマス会 (12月23日)

ビンゴゲームや動物鳴き声クイズなどで大いに楽しんでいただきました。

サンタクロースからプレゼントをもらった子どもたちの笑顔が印象的でした。



キンシコウ日中共同飼育繁殖研究終了式 (1月9日)

平成4年より中国と共同で行って来ました「キンシコウ飼育繁殖共同研究」の期間が満了のため、キンシコウを中国へ返還することになり、返還式典を行いました。

当日は、中国野生動物保護協会ちんじゅんせいの陳潤生氏ら中国代表団を招き、近隣の青谷愛児園の園児たちがお別れの歌などを合唱しました。



第11回「大人のための動物園講座」 (2月29日)

今回は動物の「食事」をテーマに野生動物との違いをはじめ、飼育下でのエサの種類・質・量・食べ方などを多面的に解説しました。

参加者は熱心に説明を聞き、積極的に質問もありました。67名受講。



(央戸正芳・福本憲一)



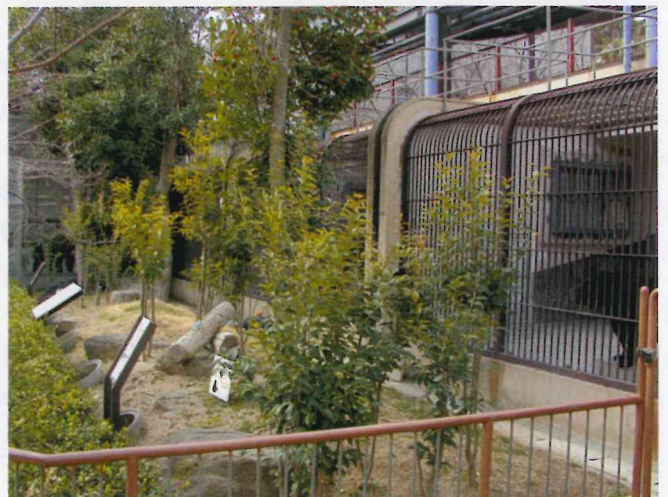
①「動物のお遊び」～ストレスの緩和～



■野生動物のストレス・・・

動物たちが、野生下で生き抜くには大きなストレスがあるといっても過言ではありません。草食動物が捕食者である肉食動物の恐怖にさらされながら食事をしたり、子供を生み育てることは、ストレス以外のなにものでもありません。しかし、そんな草食動物たちもストレスを緩和するに余りある大自然と言う懐ふところの中での生活があり、日常的にストレスと緩和の繰り返しが生続いています。それでは捕食者側の肉食動物にはストレスは無いのかというと、決してそんなことはありません。確実に獲得できるとは限らない食物となる草食動物を探しての移動や獲得手段しこうさくごの試行錯誤、または、長期にわたる絶食など、食事を得ると言うことだけでもストレスは大きなものです。肉食動物においても、草食動物同様子育ての時期には、他の肉食動物からの被害を防止するためにも、いっそうの気配りが必要で、子育ての時期に母親が劇的にやせてしまうほどストレスを受ける場合もあります。肉食動物も草食動物と同じストレスと緩和の繰り返しが常となっているのです。

食事と育児以外にも、配偶者を巡る争い、群れで生活をしている種では、群れ内での順位争いや個体関係度も大きなストレスとなります。ストレスの緩和でわかりやすい例としては、ニホンザルなどが、「グルーミング」という毛づくろいの行動をとることが良く知られていますが、これが、個体間の緊張を緩和し、個体関係を円滑に行うための、一種のストレス緩和法といえます。



■飼育動物のストレス・・・

野生下では、人が介入してストレスを緩和させる必要も無いのですが、問題は動物園などの人工の環境下ではストレスを自然環境によって緩和させる方法が少なく、ストレスが原因とされる各種の病気や異常行動が発生する場合があります。限りなく広く、自分の行きたい場所に行き、それによりストレスを発散したり、ある種の良い意味での緊張を得ることが出来る野生と違い、狭く(野生に比べて)、自由に行動するという衝動が満足させられない飼育下では、飼育係がある部分ストレスの緩和を手伝ってあげる必要があります。動物の種類によって、工夫や方法は千差万別ですが、今回は、当園の飼育係の人たちがどのような方法や工夫で、担当動物のストレスを緩和したり、退屈防止による健康増進を図っているかを特集としてお知らせします。

動物たちが、どんな物に興味を持ったり、どのようにして遊んだり、また、飼育係が、期待した利用法と違った使い方をしたり、せっかくの遊具を破壊することでストレスを緩和したりと…、苦労の一端が感じ取れたら幸いです。

(川上博司)



②インコ編

当園で飼育されている全てのインコたちは、木をかじるのが大変好きなので、新しい止まり木や巣箱を入れると、必ずと言ってよいほどボロボロにしてしまいます。

これらの行動は動物園で飼育されているインコたちにとって大変重要な行動であり、限られた飼育スペースや飼育環境において発生する様々なストレスの緩和に役だっています。

しかしながら、止まり木や巣箱をいくら新しくしてもすぐ壊されてしまうという問題や、排水溝に木屑が詰まってしまうなど、私たち飼育係にとっては逆にストレスがたまる行動なのかもしれません。

壊れない巣箱を作ろうと考え、休憩時間返上で、約3週間かけて丸太をくりぬいて制作した力作の巣箱でしたが、インコの嘴の凄まじさには勝てず、2日目には見るも無惨な結果となってしまう、最終的には巣箱をコンクリートで覆うことになってしまいました。

本来、野生動物たちは、餌を探すことや子孫を増やすことに多くの時間や労力を費やしますが、動物園で飼育されている動物たちの多くが、時間を持てあましている現状の中で、その時間を解消すべく、私たち飼育係が動物たちに対して何が出来るかを積極的に考えることこそが、本当の意味での『エンリッチメント』なのかもしれません。

(長谷川昌宏)



③ゾウ編

■ゾウのトレーニング・・・

ゾウのトレーニングでストレスの緩和と言われても、ピンとこない人が多いと思います。

でも、トレーニングも行い方次第でゾウのストレス緩和になるのです。

雄ゾウの「マック」が小さい頃は飼育係が中に入りトレーニングをしていましたが、大きくなるに従い「マック」の方が強くなり、飼育係が危険になったため、中に入れなくなりました。

今まで遊んでもらえた飼育係がいなくなり、「マック」が以前よりイライラすることが多くなりました。

そこで飼育係が柵の中にいるゾウとコミュニケーションをとる方法としてターゲットトレーニングを始めました。



これは、棒の先にターゲット(標的)とした目印(白いテープ)をつけ、飼育係が柵の外から号令をかけて棒を出し、ゾウがターゲットに体(頭、前足、後足)を触ればバナナなどの褒美ほうびを与え、グッドと言葉ほで褒めてあげるトレーニングです。

現在はこのトレーニングで足先や尾に乾燥を防ぐ目的で、オリーブ油を塗っています。

このトレーニングは飼育係が中に入らないため、ゾウがやる気になり近寄ってこなければできません。

ゾウが嫌々行うのではなく、飼育係と遊びながらエサを貰っていると思ってくれば、ストレスの緩和になっているのではないのでしょうか。

「マック」も始めてからは少し落ち着いてきたように見えます。



■ゾウの遊具・・・

ゾウの放飼場ほうしじょうには、鎖につないだタイヤと丸太があります。

これは遊び道具でストレスの緩和のために入れたものです。

鎖につないであるのは、遊具をモート(動物とお客さんの間にある堀)に落としたり、遊具で施設を壊されないようにするためです。

ゾウが小さかった頃は、鎖でつないでいなかったのですが、遊具をモートに落とされると、引き上げるのに一苦労しました。

タイヤは10トントラック用のもので、ゾウは鼻で押ししたり、持ち上げたりして遊んでいます。

この大きなタイヤも「マック」の牙に押されると潰れてしまい、穴があくこともあります。

丸太は神戸市立森林整備事務所の協力により、人が持ち上げることができる、なるべく大きな木を選んで入れます。

ゾウは丸太を遊具とする以外は、その木の皮も大好きです。牙や鼻を使って2～3日で綺麗にむいて食べてしまいます。

「マック」は丸太を鼻で器用に立て、それを後足で蹴り倒して遊びます。イライラした時などは何度も鼻で持ち上げ、足で蹴り、まるで八つ当たりをしてストレスを発散しているように見えます。

(石川康司)

④ オオカミ編



■オオカミの遊具・・・

王子動物園の小獣舎では、シンリンオオカミ、ピントロング、ケープハイラックス、ミーアキャット、ヤマアラシを飼育しています。今回はその中からシンリンオオカミへのストレスの緩和に対する工夫を紹介します。

王子動物園では雄のキングと雌のクイーンという2頭のシンリンオオカミを飼育しています。キングは昼間から寝てばかりいる、「のんびり屋」で、クイーンは人なつっこく活発な性格です。

小獣舎にはオオカミにかぎらず飼育下の動物は環境の変化の乏しい狭い空間でしか運動することができないので、日頃からストレスがたまりやすくなっています。ストレスがたまると動物も人と同じように体調を崩したり、餌を食べなくなったり、最悪の場合は病気になってしまうこともあります。これを防ぐため砂場や木という遊び道具を置いています。

オオカミは砂場で穴を掘ったり横になって砂を体にこすりつけたり、木を噛んだりして遊ぶことがストレスの緩和になっています。この他にも高さ約1mの岩場の所もあり、立体的な空間を作ること、そこを昼寝の場所に利用したりしています。

■オオカミの隠れ場所・・・

動物は人に見られたり大きな物音にもストレスを感じます。オオカミの場合も長時間人の視線を感じる状態であると、落ち着かなくなり、ひたすら歩き続けるような異常行動が現れます。これを緩和するために当園では人の視線から隠れられる場所を3カ所設けています。

このような工夫によりオオカミへのストレス緩和を行っています。これからもオオカミの行動を観察して、さらにストレスを軽減し快適な生活ができるように努めていきます。
(前川聡司)



⑤カピバラ編

■カピバラって・・・

カピバラは南アメリカ、アマゾン川流域などの水辺の草原や森林に生息し、水辺や水中に生えるイネ科の植物を好んで食べる動物です。大きな頭にまるまるとした体つきで体重が50kgにもなりますが、ねずみやリスなどと同じげっ歯目(げっしもく)のなかまになります。げっ歯目のなかまには犬歯^{けんし}がなく、門歯^{もんし}が「ノミ(木に穴をあける工具)」のように発達して絶えず伸びる特徴があります。カピバラはこの特徴である大きな門歯を利用して、どんなに短い草でも上手に食べることができるのです。また、げっ歯目のなかまの中では世界で最も大きくなる種類の動物です。

■カピバラのプール・・・

カピバラには前足の4本の指と後足の3本の指に小さな水かきがあり、見た目からは考えられないくらい上手に泳ぐことができます。また、水中では5分間ももぐっていられます。そのため、捕食者から襲われた時に急いで水中に入り身を守ることができます。動物園では捕食者に襲われるということはありません。また、カピバラは排泄や交尾を水中でする動物なので、やはり運動場と寝室のそれぞれに大きなプールをつくる必要があります。プールを設置し、その中で生活できる環境を整えることがカピバラのストレス緩和に大きく役立っています。夏の暑い日などにはプールの中にもぐって体を冷やす姿なども見られます。



■カピバラの性格は・・・

カピバラはとても大きな体をしていますが、同じなかまのねずみやリスなどと似て、とてもおとなしい動物です。お腹が空いている時には、私たち飼育係の足元にまとわりついて「早くごはんをちょうだいよ」と言わんばかりの可愛い姿を見せてくれます。そんな姿を見ているとついつい気も緩んでしまいます。しかし、とても臆病なところもあり油断はできません。例えば、けがや病気をした時に捕まえて注射しようとする、必死になって逃げ回り騒がしいくらいの声で鳴いて怖がります。カピバラのためにいいことをしてあげようと思っても、怖がらせすぎるとかえって食欲を落とし、体調を崩してしまうので、そういう時には吹き矢を使って一瞬で注射をしたりして、できるだけ怖がらせる時間を短くする工夫をしています。臆病なカピバラにとって、恐怖心の減少を図ることもストレスの緩和に役立っていると考えられます。

(島田幸宜)



⑥サイ偏



アフリカの厳しい環境に住むシロサイは、日中の暑さや、乾燥、さらには毛の生えていないむき出しの皮膚を刺そうとする昆虫から、身を守らなければなりません。

そのために、泥浴びや砂の上を転がったりすることが知られています。

当園で飼育されている「サブロー」と「ナナコ」の2頭のシロサイも泥浴びが大好きです。

特に暑い夏場には、毎日のように体中に泥や土を付けるのに夢中になっている様子を見て、私たち飼育係も泥浴びがサイの体にとって重要な行動であることを痛感し、また、ストレスの緩和にも役立っていると考えています。

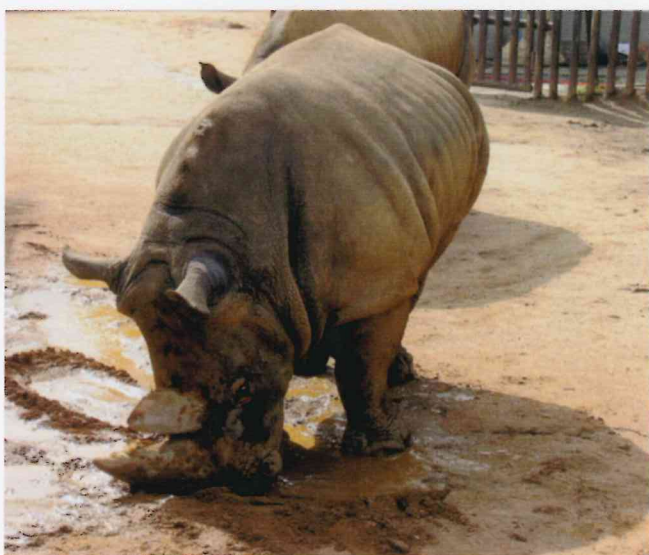
しかし、飼育下では放飼場の面積が狭く、2トンもある体重で踏みつけられ地面が硬くなったり、糞尿で汚れた^{ふんによう}りして泥浴び場の状態もすぐに悪くなってしまいます。

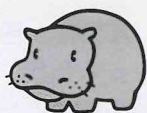
快適で安全な泥浴びを2頭に楽しんでもらうために、新しい真砂土^{まさど}を定期的に入れるようにしています。

皆さんも大きなサイが、気持ちよく泥浴びをする姿を見に来てください。

特に雨あがりの時には、「サブロー」や「ナナコ」が泥んこになって豪快に転げまわってますよ！！

(小川高志)





カバ「ナミコ」の巻

「正月から運がついたよ」

2004年1月1日・・・そう
元日その日に、電話の一報が
「カバのナミコが作業通路に
脱出して、挟まっている」と。
これは大変、正月どころでは
無いと、大急ぎで動物園に駆
けつけると、見事としか言い
ようの無い状態。おおよそ
135cmは軽くあるナミコのお
尻の幅が、どう考えても無理
と言える95cmの幅の作業通路
にぴったりと収まっているで
はありませんか。あまりの狭
さに、ナミコの足はむなしく
空をかき、床から数センチ離
れているし、わき腹の肉が作業通路の壁で悲鳴をあげ
ている状態でした。石鹸水の準備をし、対応にあたっ
ている飼育係全員で、これ以上狭い通路に入り込まな
いよう、板や角材で衝立を設置したりと、大騒動です。
衝立の準備が出来たのを見計らって、石鹸水を挟まっ
ていた体の左右に流し込みます。その量バケツに3
杯・・・空をけていた足が一瞬床についたかと思
うと、「ズルッ」と狭い通路から、若干広い監視用ス
ペースにすり抜けていきました。当のナミコも苦しか
ったのでしょう、大きなため息に似た呼吸をつき、



ホッとした表情でしたが、それもつかの間、後ろにも

前にも出口は無く、また、監視用
の開口部からステンレスの柵越し
に今まで暮らしていたプールや寝
室が見えるのですから、興奮とい
うか恐怖心というか、ナミコのパ
ニック状態は加速していきました。

興奮したナミコは天井部の照明
器具にも飛びつき噛み付いては破
壊し、ステンレスのパイプ柵にも
果敢に挑んできます。急いで開放
しないと、パニックのあまり、更
に大変な事態になりかねません。
しかし、問題が・・・「動物園に
ステンレスを切る、グラインダー
の刃が無い」。そうです、簡単な

加工用に鉄などを切ったり磨いたりするグラインダー
の刃は準備しているのですが、ステンレスとなると。
そこで、元日から動物園出入りの鉄工所の方に電話し
て、事情を話しステンレス用の刃を借りることになり
ました。こちらが恐縮しなければならないのに、「元
日なんで、朝から飲んでたので知らずにすみません」
と、動物園の都合で勝手に呼びだされたのに恐縮する
鉄工所の方に、道具を借り、いざ、ステンレス柵を切
り取り、ナミコのプールへの帰還作戦の開始です。

ステンレス柵を単純に切るというわけにはいきませ
ん。なにせ、柵ひとつ挟んで巨大なカバが興奮した状
態で暴れているのですから。まずは、柵を切るにあた
り、カバが飛び出してこないよう予防措置の準備をす
ることにしました。しかし、実際は、ステンレスが予
想以上に薄く、予防措置を取るより、カバの動きを注
意しながら、一気に切るのが最善策となりました。「ギ
ーン」と金属を切る音が響き、まずは一本目の上部
を切除・・・。その瞬間、ナミコが強烈なアタック!!
するとどうでしょう? ステンレスの柵が一瞬に根元
から折り取れてしまいました。最悪は、二本以上切り
取らないと、大きなナミコが通れるはずも無いのに折
れた一本の間から飛び出してきました。肩口まで飛び
出して来たナミコですが、その巨体が炎いしてそこで
挟まってしまいました。「急げ」の一言で、残る柵の切
除にかかりましたが、すぐ隣で口を開け暴れるナミコ
の横での切断作業は、並大抵ではありません。ちなみ
に、動物園ではのんびりした、おとなしい印象のある



前後は、前記したとおり、カバが支える狭い通路。万が一、カバが切断中にバックでもしたら逃げ場所も無く、一巻の終わりです。しかし、かわいいカバの苦しんでいる姿には換えられません。後ろ側に入り、宙ぶらりんになっているカバの足下に乾草を積み、踏ん張れるようにした上で、柵の切断を開始しました。足場も無く、また、カバの巨大なお尻が左右に動き回るスペースでの切断は予想以上に時間がかかりました。「よしっ!!」、ステンレスの柵二本目が切断出来

た瞬間、「ザバーン」と、プールに飛び込んでいったナミコ。

カバですが、野生ではワニやライオンさえも避けて通る猛獣なのです。ナミコの牙を交わしながら柵の切断は続きましたが、更に状態は悪化して、柵が切断に伴って弱くなり、くの字に曲がり、とうとう前肢までもが飛び出してきました。「これ以上は、頭側からの切断は無理だ」と判断したのですが、問題は後肢側に回るのは、前肢側以上に危険と言うことです。後ろは、作業通路の一部が広まった畳2畳ほどのスペース。

た瞬間、「ザバーン」と、プールに飛び込んでいったナミコ。

おお騒がせの事件でしたが、わき腹にたくさんの擦り傷でも何食わぬ顔のナミコと、元日の日からくたくたの飼育係。こんな正月はこりごりと言いながらも、「正月から運が付いたなぁ?」とナミコのウンチが飛び散った作業服の飼育係が一言。(川上博司)



インドゾウ「マック」の巻

「落っこちました」

カバの脱出は特殊な事件でしたが、大物と言われる大型獣のアクシデントは大変な作業になるものです。大型獣と言えば、哺乳類(陸上の)最大のゾウにもこんなアクシデントがありました。1996年3月9日10時05分頃、観覧者からの「ゾウが溝に落ちている」の連絡が入りました。当時4才のオスゾウ(愛称:マック)が、物の見事に脱出防止用のモート(堀式の柵の一種)





の底で^{いしゆく}萎縮し固まっていた。1.75mの堀に落ちたショックから身動き一つせずたずんでいました。これは一大事と、飼育係全員集合のもと、マックの救出劇の開始となりました。まずは、マックに外傷が無いが、骨折などしていないかと心配しましたが、獣医師

の検診では極小さなスリ傷がある程度で、心配された大怪我の類はありませんでした。担当飼育係が声をかけ落ち着かせて、ゆっくりとながらモートから運動場に入ることの出来る階段の方に誘導しました。同時に、階段部分には、脱出防止のため^{くき}楔状の突起がたくさんあるため、マックが足をいためないように、人海戦術で乾草と土を入れ、マックが歩きやすいようにしました。日ごろ歩いたことの無い場所のうえ、普通は楔状の突起で足を踏み入れることの出来ない場所だけに、一歩進むのも大変慎重でした。一段階段を上るごとに前肢に繫留用のチェーンを掛け手繰り寄せながらの作業でした。しかし、運動場が視界に広がった、あと一段で、とうとう自力で運動場に上り戻りました。当園では以前飼育していたオス（愛称：太郎）がメス（愛称：諏訪子）に突き落とされる事故が2例ほどありましたが、今回は、マックのみが運動場にいたときの出来事でした。

原因は、いつも、モートの縁の段に前足を乗せ、綱渡りのように移動するのを楽しみにしていたマックが、バランスを崩し落ちたと言う、実に情けない事故だったようです。

自信満々にバランス移動していたのが、自信過剰になったと言うことです。

大惨事にならずに良かった良かったと言うことでしょいか?

(川上博司)





動物相談

アラカルト

「紙芝居(かみしばい)」

こども動物相談では、土曜、日曜、祝日の午後1時30分から、動物の話に続き紙芝居をしている。

「おじちゃん、今日はどの紙芝居をするの？」午前中から来て待っている子どもから声をかけられた。「双子のゾウ『ポポルとププル』だよ」と応えると「ありがとう！」と言ってくれた。このように毎週、紙芝居を楽しみにやってくる子どもがいる。

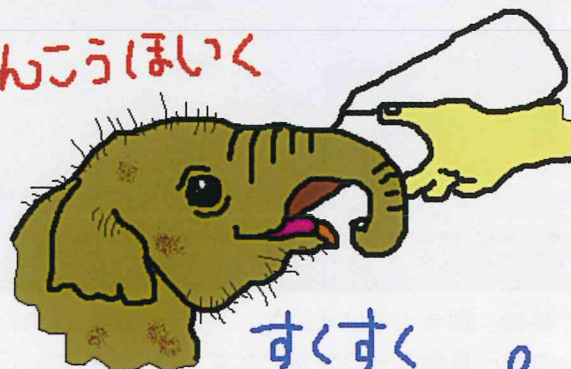
紙芝居は紙を抜くタイミングが大事。慣れない頃は2枚一緒に抜き「おじちゃんまちがっているよ」とよく言われました。最近ではそんなこともなくなり登場する動物に合わせ、ゾウさんなら太いガラガラ声、ネズミは細く小さく、クマは荒い声、と演出もうまくなった。

そして紙芝居が終わると、1番前で見えていた3歳ぐらいの子どもさんが嬉しそうに両手を頭の上にあげ一生懸命に拍手をしてくれた。「ありがとう」と声をかけ今日も楽しい動物相談の幕がおりたのでした。

(鈴木 忠)

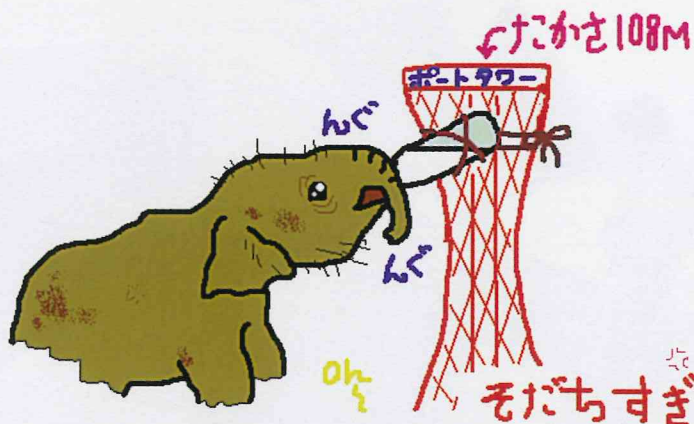
①

じんこうほいく



すすく
そだて!

②



まんが:かわかみひろし

★こども動物相談のご案内

日 時: 日曜・祝日の 午前 10:00 ~ 11:30
午後 1:30 ~ 3:00

場 所: 動物科学資料館 休憩ホール

内 容: 動物相談、紙芝居など

★動物相談箱

動物科学資料館休憩ホールに設置

動物に関する質問を、備え付けの用紙に書いて箱へ入れてください。
後日電話で回答いたします。

★動物鳴き声テレホンサービス

☎ 078-881-8102



コアラ

コアラ科コアラ属

Phascolarctos cinereus



の葉しか食べないのか。ユーカリの葉は殺菌能力を持つほど強い毒性があるが、コアラの肝臓はその毒性を解毒する高い能力がある。そして、消化能力の高さもあげられる。たいていの草食動物は消化管の一部が発達し、そこにすむバクテリアの働きで草や木の葉を分解し栄養を吸収しているが、コアラの場合は盲腸と結腸を発達させている。特に盲腸の長さは3メートルにもなる。これは全哺乳類の中で最長である。コアラの「ぷっくり」したお腹の大部分は、この長大な盲腸と結腸が占めている。ここにすむバクテリアの力でユーカリを分解し栄養を得ている。

ユーカリの葉には多くの水分（約60～80%）が含まれるので、コアラは普通水を飲まなくとも良い。ユーカリの葉は繊維が多く低蛋白である。離乳の初期において、幼獣は母親の直腸から分泌される半液状の糞（色は黄緑色で、濃いカスタードと同じくらいの堅さ）を食べる。この物質は、パップと呼ばれ、母親の盲腸の有効な腸内細菌を含み、これによって若いコアラはユーカリを食べることが出来るようになる。

コアラはオーストラリア大陸東部の熱帯から冷温帯にかけて平地の森や疎林など様々な場所で見られる。最近宅地開発、伐採、山火事などによりユーカリの森が年々減少しており、コアラの数も減少していると言われている。（中筋功二）

動物園での一口メモ

コアラはユーカリしか食べませんが、動物園では一日の食事として、一頭につき7～8種類のユーカリを17～19本与えています。

王子動物園にいるコアラの生息地は、オーストラリア東沿岸北部地域です。また、体重は雄で約8kg、雌で約5kgあります。

健康管理のために毎週日曜日の午前10時30分頃から全頭体重測定を実施しています。普段じっとして眠っていることが多いコアラですが、その頃コアラ舎に来ていただければ起きているコアラがご覧いただけるでしょう。

飼育数（2004年2月末現在）

雄 3 頭

雌 4 頭

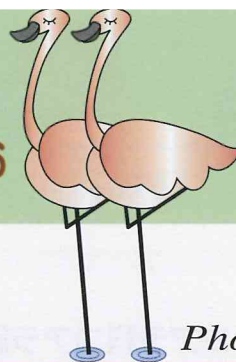
計 7 頭



英名 Koala オーストラリア原住民のアボリジニの言葉で“水を飲まない”の意。コアラは夜行性であるいは薄暮性であり、巣を作らないで樹上に眠る樹上生活動物の1つである。コアラの手足はよく発達し、長く、とがった爪を持ち、枝や幹を登るのに大変便利である。体毛は短く厚く密生し、背面は暗い灰色、腹面は白色から灰白色である。大きく丸い耳には毛がふさ状にはえる。体重は成獣で5～12kg。雄は雌より40%～50%大きい。

コアラにもっとも近縁の種はウオンバットである。また、コアラの他の通称はコアラ・ベアーやネイティブ・ベアーと呼ばれているが、クマの仲間ではない。妊娠期間は約35日。出産頭数は、普通は1産1子だが、ごくまれに2頭出産することもある。生まれてくる子どもは超未熟児（体重は約0.5gで、身長は約19mm）の状態で、大人の小指の先ぐらいしかないが自力で母親の袋（育児のう）の中に入る。そこで1つの乳頭に吸いつき、後6ヶ月間過ごす。同じ有袋類のカンガルーの袋が上向きについているのに対し、コアラの袋は下向きについている。子供は袋の中でだんだん大きくなり袋の中に入れなくなると母の背中に登る。袋から出るようになってからも4ヶ月ぐらいは母親のもとにいるが、生まれて1年半経つと母親と別れ自分の縄張りを探して別のユーカリの木に移る。

コアラはユーカリの葉のみを食べる。なぜユーカリ



Phoenicopteridae

フラミンゴ フラミンゴ科



フラミンゴは、最も集団性が高くかつては100万羽近い群れがあったほどである。世界中に3属5種類いる。アフリカの塩水湖や地中海・紅海からインド西部にかけての熱帯、亜熱帯地方にかけて2種類が棲み、一部は温帯地方にも棲んでいる。数千から数万の群れで塩水湖や河口、海岸の干潟に棲んでいる。また、南アメリカ大陸に棲んでいる3種類は、海拔1500～4000mにある塩水湖に棲んでいる。

分類学的には、コウノトリ目とカモ目の中間の位置にあり、かつてはコウノトリ目に分類されていたが、現在はフラミンゴ目として独立している。大型で頭までの高さが140～150cm位あるオオフラミンゴ(*Phoenicopterus ruder*)は2亜種いる。そのうちの、1亜種はヨーロッパフラミンゴ(*P.r.rosens*)でアフリカの一部と地中海・紅海からインド西部にかけて棲んでいる。体全体は白っぽく見えるが、嘴の基部はピンク色をしており羽も少しピンク色をおびている。もう一方の亜種であるベニイロフラミンゴ(*P.r.ruder*)は、南アメリカ大陸の北部海岸、カリブ海周辺の島や西インド諸島及びガラパゴス諸島に棲む。名前が示すように体全体は鮮やかな紅色をしており、同じ種でありながら生息地も羽色もずいぶん異なっている。一番小型で頭までの高さが100cm位なのがコガタフラミンゴ(*Phoeniconaias minor*)である。体全体は白っぽく見えるが、ヨーロッパフラミンゴよりはピンク色が多く濃い。集団性が高いため群れ全体としてはピンク色に見え空を飛ぶ姿が美しい種である。主にアフリカの塩水湖に棲んでいるが一部はインド西部にも棲む。南アメリカ大陸に分布している3種のうち、動物園で一番多く飼育されているのが、頭までの高さが130cm位のチリーフラミンゴ(*P.chilensis*)である。羽色はヨーロッパフラミンゴに比べて紅色が目立つ。アンデス山脈の海拔

4500mの高地に棲んでいることもある。残り2種は、アンデスフラミンゴ(*Phoenicoparrus andinus*)とジェームスフラミンゴ(*P.jamesi*)である。

アンデス山脈の高地にある凍るような冷たい塩水湖に棲み他の種のように大きな群れはつくりらない。国内での飼育歴は、過去に数羽あるだけで現在は飼育されていない。

フラミンゴの最大の特徴は、その餌の食べ方である。野生下では、藻類やプランクトンなど非常に細かなものが主食である。そのため、嘴が他の鳥類とは異なり大きくへの字に曲がり下嘴が箱のようになっており上嘴が蓋の役目をしている。嘴の縁がくしのようになっており餌がここに溜まると、舌にある突起で集めて喉の奥に運び食べる。このような、食べ方を濾過式採餌法と呼ぶ。

繁殖方法も特徴があり、集団で求愛行動を行いペアができると雌雄共同で泥を積み上げ植木鉢を伏せたような巣を作り1卵だけを産卵し雌雄交替で28～29日間抱卵する。ヒナは、「フラミンゴミルク」と呼ばれる赤い色をした液体をもらう。この液体は、食道の一部が袋状にふくらんでいる「そのう」とよばれているところで分泌される。栄養価が高く雌雄ともに分泌し子育てをする。ヒナは、7～10日目位から巣から離れてヒナばかり集まる。これを「クレイシ」と呼んでいる。1年後には親と同じような羽色になるが脚はまだ黒っぽい。

性成熟は、2歳で産卵可能であるが、本格的に産卵し繁殖するのは5～6歳になってからである。

寿命は、30年以上で40年から50年近く生きる個体もいる。(吉竹 渡)

動物園での一口メモ

動物園では、フラミンゴペレット20kg前後とオキアミ25kgを与えています。1羽当たりするとペレット120g前後とオキアミ140gです。現在では、オオフラミンゴ2亜種を飼育しているのですが過去にはチリー種とレッサー種も飼育していました。20年間繁殖しており神戸っ子のヒナも400羽以上になり、各地の動物園にもらわれて行きました。また、海を渡って中国の動物園にも70羽も行きました。

飼育数(2004年1月末現在)

ヨーロッパフラミンゴ	90羽
ベニイロフラミンゴ	95羽
計	185羽(内当園生まれ146羽)



動物の話題



ベビー誕生

「インドゾウ」メス (2004(平成16)年3月2日生まれ)

ついに「ズゼ」13歳がお母さんになりました。
母子ともに元気です。(父親「マック」11歳も元気)
日本国内の動物園でインドゾウが無事出産したのは、明治21年にゾウが飼育されて以来116年間で初めてのことです。



【出生時記録】
体重：124 kg
体長（おでこから尻尾の付根までの長さ）：110cm
体高：100cm

「コモンマーモセット」2頭、性別不明 (10月4日生まれ)

ニューフェイス



愛称「ヤマト」

▲オス(26歳)



愛称「サクラ」

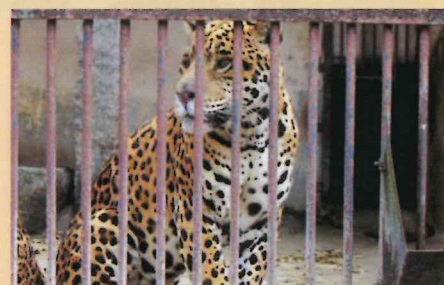
▲メス(25歳)

「ニシローランドゴリラ」 オス・メス

1月21日、香川県栗林公園動物園から来園



▲オス(16歳)



▲メス(16歳)

「ジャガー」 オス・メス

1月25日、香川県栗林公園動物園から来園

別れ

「キンシコウ」

すっかり神戸の顔としてなじんでいたキンシコウファミリーが、3月23日中国に帰国しました。これに先立ち1月9日に、中国野生動物保護協会の陳潤生氏らをお迎えし「キンシコウ日中共同飼育繁殖研究終了式」が行われました。



▲オス(2歳)

愛称「リュウリュウ」



▲オス(9歳)

愛称「ケンケン」



▲メス(23歳)

愛称「ウェンウェン」

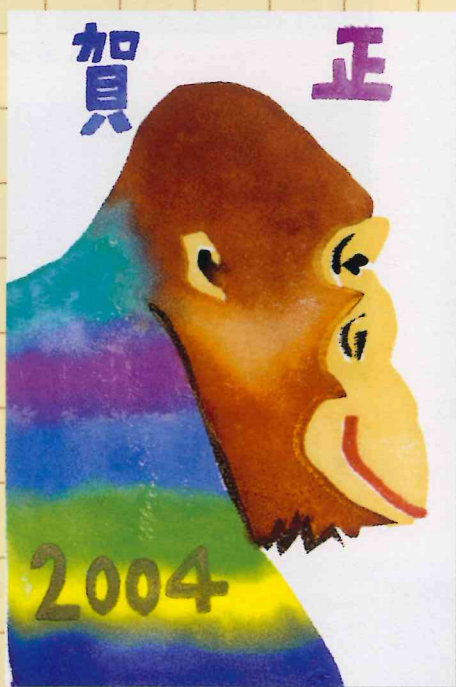
(穴戸正芳・福本憲一)



神戸市長賞 中島由記奈
(神戸市・白川台中学校3年)



神戸新聞社賞 中屋佑香
(神戸市・西神中学校1年)



王子動物園長賞 南條和真
(神戸市・箕谷小学校3年)



金賞 30点

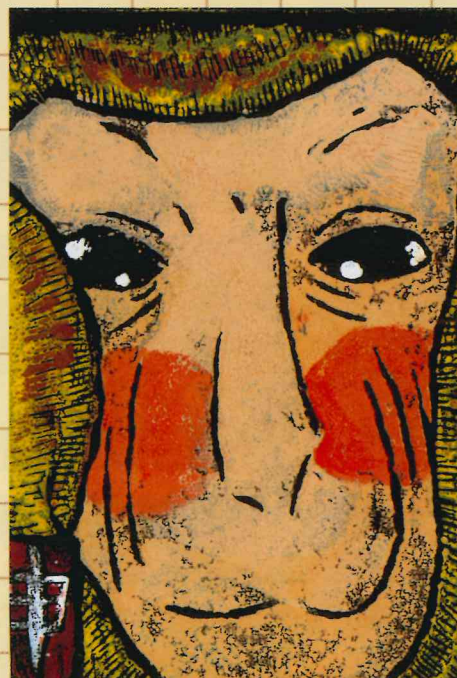
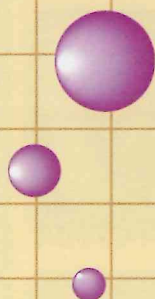
銀賞 100点

応募総数 1,097点

審査 版画家 川西 祐三郎 先生



神戸市教育委員会賞 中野羽音
(神戸市・名谷きぼうの丘幼稚園5歳)



サンテレビジョン賞 辻 早紀
(京都府熊野郡・海部小学校6年)



神戸市動物愛護協会賞 橋元志歩
(神崎郡・香呂小学校5年)



神戸市公園緑化協会賞 森村峯子
(加古川市平岡町)



世界のいろいろな



◆ホソロリス



◆スローロリス



◆オオガラゴ



◆アシルテナガザル



◆シロテナガザル



◆ニシローランドゴリラ



◆ポッター



◆マングースキツネザル



◆エリマキキツネザル



ワオキツネザル



ボルネオオランウータン



◆クロキツネザル



◆チャイロキツネザル



◆ネズミキツネザル



★アイアイ



◆フィリピンメガネザル



◆アカウワカリ



フサオマキザル



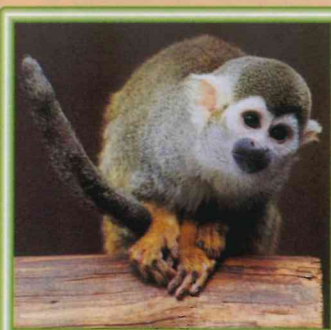
◆ウーリーモンキー



◆ケナガクモザル



◆アカクモザル



コモンリスザル



ヨザル



◆シロガオオマキザル



◆ノジロオオマキザル



◆アカホエザル



◆クロホエザル



◆モンクサキ



ゴールデンライオンタマリン



◆セマダラタマリン



◆クチヒゲタマリン



◆アカタマリン

サル

特別展「サル展」より

2003.12.20～2004.4.11

- 原猿類
- 新世界ザル
- 旧世界ザル
- 類人猿
- 当園で飼育しているサル



ワクロテナガザル



マンドリル



キンシコウ



◆アカオザル



◆ウチヒゲグエノン



◆サイクスモンキー



チンパンジー



アビシニアコロブス



◆シュミットグエノン



◆シシオザル



◆テングザル



すんでいるところ



◆トクモンキー



◆バーバリマカク



◆モナモンキー



ブラッサグエノン



◆ゲラダヒヒ



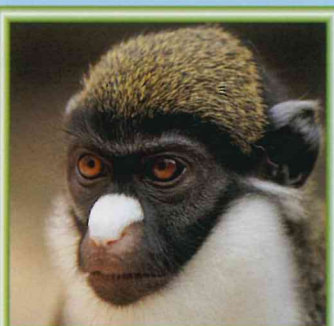
◆フクロウグエノン



◆ダイアナモンキー



コモンマーモセット



ショウハナジログエノン



◆ロウエストグエノン



◆シルバールトン



◆カオムラサキラングール



◆アカゲザル



◆ブタオザル



◆ボンネットモンキー



◆エンペラータマリン



◆ビッグミーマーモセット



◆シルバーマーモセット



◆クロミミマーモセット



◆ワタボウシパンシエ



ニホンザル

写真協力

◆: (財) 日本モンキーセンター

★: (財) 東京動物園協会

(安宅範子)



神戸パンダサブレ

チョコレート生地とプレーン生地で、
神戸のパンダをあらわした、歯触りの
よい、あっさりしたサブレです。



15枚入り 840円(税込)

■販売元

昭栄株式会社

〒654-0161 神戸市須磨区弥栄台3丁目3-8

TEL (078) 794-3600 (代)

familiar
<http://www.familiar.co.jp>



新呼吸する感じ。

新しい空気を吸いこむ場所、匂を感じることでできる場所、
そこへ行けば、次のスタイルが見つかる場所。
ファンビ寺内は、皆様のそんな場所でありたいと考えます。
100万アイテムを数える豊富な商品力、そして常に流行を捉え
発信し続ける情報力で、次の新しさをしっかりとご提案。
最新が集まる総合卸商社ならではの瑞々しい感性で、
ドキドキ呼吸する音が聞こえてきそうなほど新しい
次のスタイル探しをお手伝いします。



ファッションと
暮らしの
総合卸商社。

時代の感性をカタチにします。

fanbi寺内

〒541-0058 本社/大阪市中央区南久宝寺町1-9-13
TEL.(06)6262-2161(代) FAX.(06)6266-7210

<http://www.fanbi.co.jp>

伊藤園



空容器の散乱防止リサイクルに協力ください。

おいしいお茶は、
自然が育んだ、恵みいっぱい
の一番茶を使用。
素材がいいから
香りも、味も、ごまかさ
ない、無香料・無調
味。
まさに、
自然の恵みそのままの
おいしさです。



自然を私に。自然のままに。

これが、
お茶。
(無香料・無調味)



KIRIN
Beverage

KIRIN

生茶
なまちゃ

緑茶

キリンビバレッジ
www.beverage.co.jp

生茶葉抽出物使用。〔加熱処理〕のんだあとはリサイクル



Trademark Regd.

近畿コカ・コーラボトリング株式会社
KINKI COCA-COLA BOTTLING CO., LTD. (コカ・コーラ販売会社)
<http://www.kinki.cbcc.co.jp>
Coca-Colaは The Coca-Cola Company の登録商標です。



母親からフラミンゴミルクをもらうヒナ

編集後記

今年は元日から色々なことがありました。誌面で紹介したカバの脱出劇に始まり、11年間にわたるキンシコウの日中共同飼育研究の終了、栗林公園動物園からゴリラ、ジャガーなどの搬送・受け入れ、ゾウの出産等々で園内は大忙しです。子ゾウは人工^{ほいく}哺育となりキーパーと獣医は交代で泊まり込み、^{ほにゅう}哺乳にあたっています。哺乳は相当長期間になりそうで、彼らの体力がいつまで続くか心配です。また、この先子ゾウ舎も建てないと、でも経費はないしどうしたものか…。ともあれ国内で初めて生まれたインドゾウの子供、大事に大切に育てていきたいと思っています。

今回ののはばたき54号は動物たちへのエンリッチメント第四弾、ストレスの緩和を取り上げています。キーパーの動物たちに対する心づかいを読みとっていただければ幸いです。(副園長 石川 理)

- 特別展開催
- 日曜・祝日…ゾウのしつけ参観・ペンギンガイド
- ふれあい広場…『ふれあいタイム』(団体は要予約)〔毎日〕
- 動物に関する教育支援事業
…『わかるかな?動物たちの鳴き声』
(小学校低学年の郊外学習 要予約)〔火曜・木曜〕
- こども動物相談〔日曜・祝日〕
- テレホンサービス… ☎078-881-8102
- ホームページ…<http://www.ojizoo.jp>
- 休 園 日:毎週「水曜日」
(但し、祝日・休日と重なる場合は開園)、
12月29日から1月1日

はばたき

第54号

2004(平成16)年4月1日発行

企画・監修 神戸市立王子動物園
☎078-861-5624
編集・発行 (財)神戸市公園緑化協会
動物園事業部
〒657-0838
神戸市灘区王子町3-1
☎078-801-5711
デザイン・印刷 (株)岸本印刷所
☎0794-32-0123



0 406130 000406
730



このはばたきは、
再生紙を使用しています。

R70
品質表示が記されています

定価300円(消費税込み)

2004.03.3000